

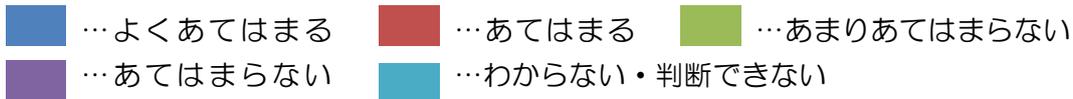
久米っ子だより

2024年12月12日 第17号
<http://www.kuwana-c.ed.jp/kume-e/>



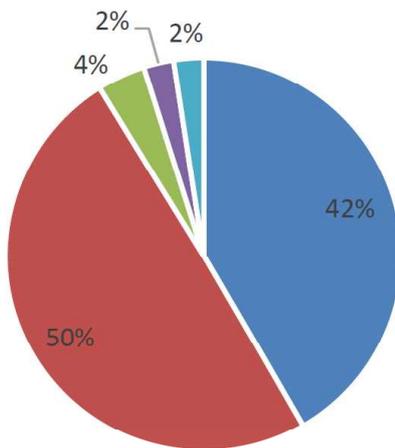
よりよい久米小学校をめざして ～保護者アンケートより～

先日はお忙しい中、保護者アンケートにご協力いただきありがとうございました。結果の集計ができましたのでお知らせします。同時期に児童アンケートも行いましたので、今後の学校改善に活かしていきたいと思えます。児童アンケートの結果については今後の号で掲載予定です。



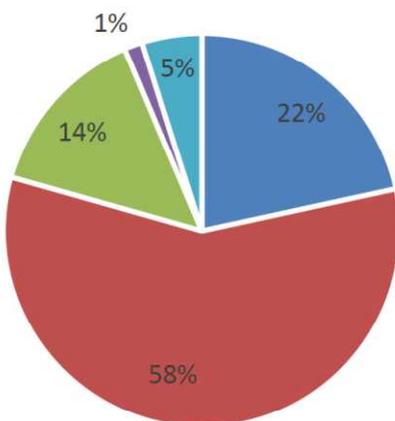
回答数：204（回答率84.6%）

①子どもは楽しく学校に通っている。



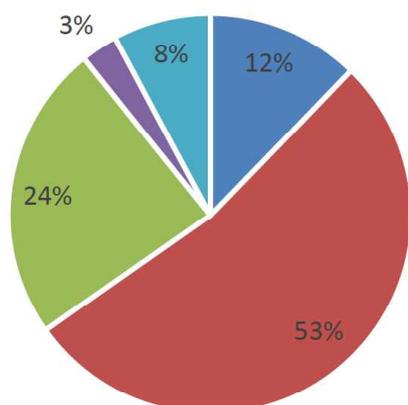
92%の方が肯定的なご回答でした。昨年度より増加していますが、そうは思えないという方が6%みえます。児童アンケートの結果では昨年度より肯定的な回答が減少しており、否定的な回答が15%を超えています。学校としてはこの結果を重く捉えています。すべての子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思える学校づくりは最重要課題です。日常的な児童観察をよりきめ細やかにを行い、子どもたちの気持ちに寄り添った丁寧な聞き取り等を行いながら、悩み事や困り事などの解決に今後も取り組んでいきます。必要に応じてスクールカウンセラーやスクールハートパートナーも活用していきます。

②子どもはあいさつができています。



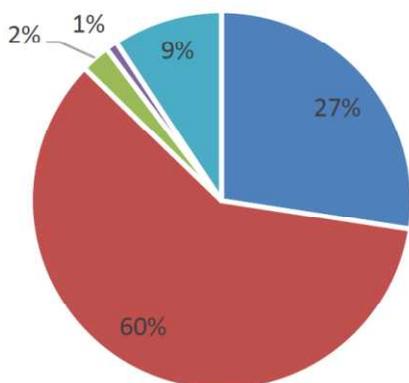
肯定的な回答は80%でした。同じ項目で子どもたちの79%が「自分は進んであいさつをしている」と答えていますが、朝の登校時では体感的に60%ぐらいではないかと感じます。先日の学校運営協議会では、地域の方から「気持ちのいいあいさつをしてくれる」というお話を聞かせていただきました。学校としてはあいさつは大事だと考え、集会生活委員会発信であいさつ運動も定期的に行っています。あいさつはする方もされる方も気持ちがいいことや、あいさつ本来の意味を自ら考えるなど、あいさつの大切さを子どもたち自身が実感できるよう取り組みをすすめていきます。

③子どもは「授業はよくわかる」「楽しい」と言っている。



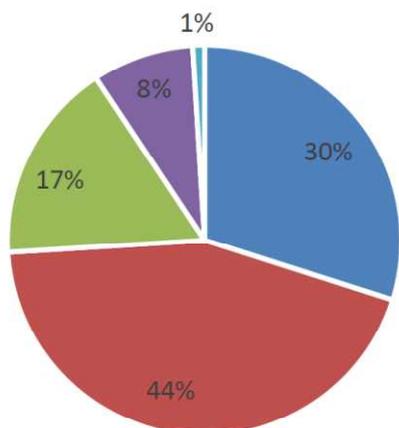
65%の方が肯定的なご意見でしたが、否定的な回答が27%、「わからない・判断できない」という回答が8%あったことを学校としては重く受け止めています。同じ質問で、子どもたちは81%が肯定的な回答をしていることから、保護者と子どもたちとの間に大きな開きがあります。保護者の皆様に授業での子どもの様子が見えにくい、または保護者目線では「よくわかる授業」とは考えにくいのではないかとこのことが言えると思います。教科担任制を活用しつつ授業改善をすすめ、楽しく学びながらより深い学びができるよう取り組みます。また、保護者の皆様にとってより透明性の高い授業のあり方について職員で協議し、改善していきたいと思ひます。

④子どもは学校のルールを守っている。



肯定的な回答が87%ありました。実際学校での子どもたちの様子を見ると、どの学年の子どもたちもルールはよく守っていると感じます。ただ、そもそも何のためにルールがあるのか、ということについてはあまり意識がされていないように感じます。例えば「廊下は走らない」というルールがありますが、これは「人や物にぶつかってけがをしたりさせたりしないため」であり、そのためにルール化をしています。ですが、それはあまり意識されておらず、「廊下を走らないこと」が目的になっています。「ルールだから守らなければいけない」ではなく、何のためのルールなのかが意識できるよう、日常的に子どもたちと考えていきたいと思ひます。

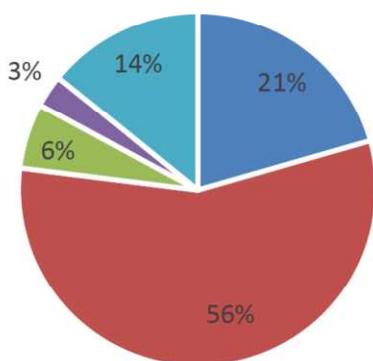
⑤子どもは毎日家庭学習をしている。



74%が肯定的なご回答でした。一方で25%は否定的なご回答でした。昨年に比べて否定的な回答が若干増加しています。過度な負担にならないよう、「家庭学習」の内容や量については担任あるいは教科担任が工夫・調整しています。子どもたちの興味や関心に基づく自発的な家庭学習についても「自学ノート」を準備するなどしてありますが、学校外での学習については定着がなかなか難しいようです。気になるのは、全国学力・学習状況調査結果でお示した「平日におけるスマホやタブレットでゲームや動画、SNSをしている時間」との相関です。平日1日あたり2時間以上と答えた児童の割合がかなり高かったことも今回の結果に表れているのかもしれませんが、家庭学習（宿題）を「やったか」か「やっていないか」に注目するのではなく、「どんな内容か」「困っていることはないか」といったお声かけをしていただくとありがたいです。

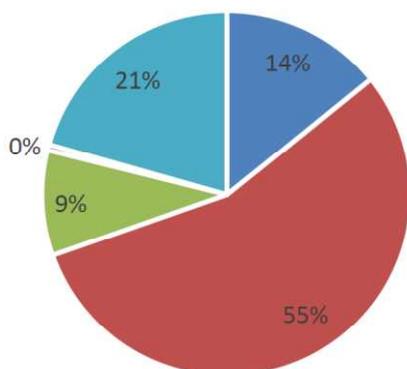
⑥学校は一人一人の子どもを大切にしたい指導をしている。

77%が肯定的なご意見でした。14%の方が「わからない・判断できない」と回答されたことについて、学校の取り組みがしっかりお伝えできていないと反省しています。学校では、「すべての子どもたちにとって学校が安心できる居場所」であるよう、全教職員が日常的な子ども観察をおこない、情報共有を密にしながら適宜適切な指導を行うよう意識しています。また、「一人一人の子どもを大切にする」ための取り組みの主語が「教師」ではなく「子どもたち」になっているか、自己評価を常に意識しながら取り組みをすすめています。当たり前のことですが、一人一人の子どもを大切に、子どもたちが予測困難なこれからの社会をよりよく生きていくための力の育成に努めて参ります。



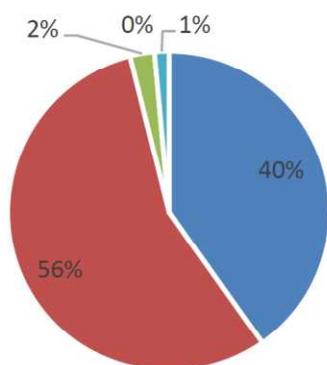
⑦学校はいじめのない学校づくりに努めている。

69%が肯定的なご意見でした。昨年度よりは肯定的な回答が増加していますが、9%の方が否定的な回答、21%の方が「わからない・判断できない」と回答されたことについて重く受け止めています。「いじめ」は心と体を壊す人権問題だと考えます。子どもたちの人間関係等からいじめに発展することのないよう、早期発見・早期対応に努めていきたいと思えます。また、「いじめとはどういうものか」「なぜいじめはいけないのか」等について、子どもたち自身が考え、振り返る機会を1年を通じて設けることで、日常的ないじめ防止に努めていきたいと思えます。お気づきの点がありましたら是非学校までお知らせください。



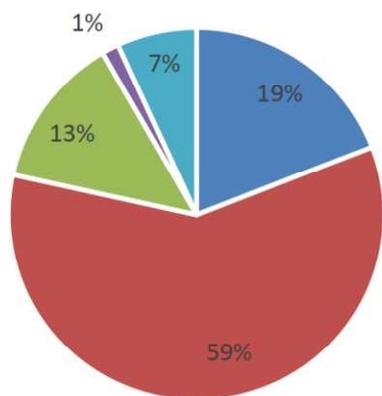
⑧学校はたよりやホームページや行事を通して子どもの様子を伝えている。

96%が肯定的なご意見でした。学年だよりや学校だより等を目を通していただいていることや、運動会やオープンスクールなどの行事にお越しいただいていることに感謝申し上げます。昨年度よりも10%増加していることが素直に嬉しいです。「子どもを主語」にした行事づくりや、各種たより、tetoruを使ったお知らせを丁寧にしてきたことの成果かなと思えます。また、スクールサポーターの皆様をはじめとして、保護者の皆様や地域の皆様に来校していただき、子どもたちに関わっていただける機会を継続的に持てたこともよかったと思えます。今後も子どもの様子はもちろん、学校の様子や、力を入れている取り組みについてもご理解



いただけるよう努めて参ります。

◎保護者は困り事や心配事を学校に相談しやすい。



78%が肯定的なご意見でした。昨年度より15%増加していることは大変嬉しいですが、2割強の方は否定的または「わからない・判断できない」と感じられていることも事実です。学校として今後のあり方を問い直さなければなりません。保護者と学校は立場は違いますが、めざすところは同じだと思います。よきパートナーとして、子どもたちのよりよい成長をめざしたいと思います。今後も双方向の対話が気軽にできる環境づくりに努めて参ります。

先日職員で、「10年後はどんな社会になってるだろう」というテーマで雑談会を行いました。「AIが進化して・・・」という話がたくさん出てきましたが、最終的に「多様性」「共生」「想定外」というワードに行き着きました。これまでの10年の社会の変容を振り返ると、これからの10年は予測が大変難しいです。しかし、社会がどのように変化しようとも、久米小がすべての子どもたちにとってよりよくあり続けるために「今、何を大事に学校づくりをすすめていけばいいのか」ということに思考が戻ってきます。「地域とともにある学校」を基軸として、保護者や地域の方との「顔の見える関係」を大切に、双方で子どもたちのために「大事なことは何か」を考えていくことを決してないがしろにはしないと改めて思います。

学校教育は「だれ一人取りこぼすことなく、安全で安心して学べる教育を提供する」ことが最も重要視されなければならないと思います。学力向上や体力向上ももちろん大事ですが、「向上」を意識しすぎて上ばかり見ていたら足下がぐらつきます。学校の（学級の）心理的安全性を確保し、子どもたちが安心できる学校づくりをすすめることが学びの深まりへとつながります。「子ども主体の学校づくり」をすすめることで、すべての子どもたち・保護者の皆様・地域の方々に信頼される学校づくりをしていきたいと考えます。

今年度本校の学校教育目標は「豊かな未来を切り拓く『自己決定力』の育成」です。「自己決定」する主語は「子どもたち」です。子どもたちが自ら課題意識を持って、自ら考え、判断し、実行して、課題を解決していく「自律する力」の育成に取り組んでいます。「自律」は今後の予測困難な時代を生き抜くためのキーになると考えます。目標の達成のためには保護者・地域・学校の連携は不可欠です。「どうしたの？」「あなたはどうしたいの？」「何か手伝えることはある？」という3つの言葉がけから、子どもたちの自己決定の場面を活用して子どもの「自律」を育みたいと思います。ご家庭においても自己決定の場面をつくっていただければと思います。

また、「子どもが主語」の授業（教師による一斉教授型の授業ではない授業）を目指し、「学ぶ楽しさ」を実感できるよう授業改善を継続します。子どもたちからの「問い」（なぜ？いつ？どこ？どうして？なにが？等）の答えを、授業の中で子どもたちの協同作業によって見つけていく活動を通して学びを深めていきたいと思います。

すべての子どもたちが笑顔であるよう、保護者の皆様・地域の方々からの声を真摯に受け止め、連携・協力しながら学校づくりをすすめていきたいと思います。